

二〇一九年二月一日(参加者二四名)

身に入むや大磐座に鑿のあと	菜々
また増へし診察券や身にぞ入む	満天
母の字の葬儀メモあり身にぞ入む	明日香
野仏の円座となりて草もみぢ	菜々
身に入むや施設に友を見舞ふとは	うつぎ
銀杏黄葉一直線の御堂筋	よし子
紅葉して洞だらけなる老桜	ぼんこ
人口の右肩下がり身にぞ入む	小袖
願掛けに紅葉明りの礎のぼる	明日香
紅葉寺みんな笑顔で撮られけり	みづき
袖合はす山々いよよ紅葉濃し	みづき
病棟の窓に遊べる蔦紅葉	素秀
石積みし武将の墓や蔦紅葉	なつき
身にぞ入む水禍のニュース尽きるなし	はく子
下校子の歩きスマホや身にぞ入む	なおこ
深き谷より燃え上がる紅葉かな	董雨
採石の絶壁見せて紅葉溪	素秀

黄葉して宮の要の大公孫樹	わかば
旅名残り機窓に今日の紅葉山	たか子
身に入むや高齢車事故聞くにつけ	はく子
身に沁むやお顔だけなる磨崖仏	もとこ
身に入むや古本市に虚子句集	よう子
海底に眠る空母や身にぞ入む	うつぎ
せせらぎの水草紅葉ネオンめく	智恵子
身に入むや磨きて愛車との別れ	うつぎ
中腹に地肌の見ゆる紅葉山	せいじ
源流は確かこの辺紅葉峡	かかし
広げたる句帳へ一葉散紅葉	満天
異国語で賑はふロビー紅葉宿	素秀
老舗さえ消ゆる街並身にぞ入む	宏虎
日を浴びし散居の里の冬もみじ	たか子

WEB句会みのる選・二〇一九年二月一日